

令和6年11月15日に開催した、みどり市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会における委員の意見を集約。

	総合戦略検証委員意見	昨年度の回答	現状・取組
1	みどり市は大間々・東は高齢化、笠懸は若年層転入増など、地域ごとに人口特性がある。医療、福祉、子育て、介護、交通など、バランスの取れた整備・発展をしていただきたい。また、職と住が近いことは重要だと思うので、働く場の整備の推進を期待したい。	子育てや教育が前面に出がちだが、住みやすい町というところでは、今ご意見いただいたように、医療、福祉、介護、交通も充実させる必要があると思っている。 また、近隣市への転出超過には働く場という点が影響していることもあるかと思うので、働く場について意識した取り組みにも力を入れていきたい。	働く場の確保については、今後産業団地の誘致などが計画されている。 このほか、地域ごとの様々な資源を生かした働く場の創出を推進するため各事業を検討している。
2	若い人が住もうとする理由になるような、飲食店や商業施設が近隣市に多くあり、全国的にも人口減少が進む中で、みどり市が人口減少の対策としてどこまでの施策に取り組んでいくのか、具体的な方向性はあるのか。	子育て施策については競艇からの「こども未来基金」の20億を使い、具体的なところを検討中であり、また渡良瀬幹線道路の整備と併せ、産業団地の整備を実施中であり、子育てと雇用両面で検討している。	今年度から本格的なこども施策がスタートした。幹線道路沿線の産業団地の誘致なども本格化しており、子育て、雇用、さらに住居等さまざまな視点での施策に取り組んでいく。
3	東・大間々・笠懸という3つの地域別にどう考えていくかが大切かと思う。笠懸はどんどん発展しているが、東や大間々の方は厳しい状況がある。観光で交流人口を増やすだけでなく、定住施策が重要だと考える。年間を通じて、人が集まるような状況を作るような計画をお願いしたい。	岩宿周辺の整備が始まる一方、大間々の町中では、リノベーションまちづくりを手がけている他、ながめ周辺も今後整備を検討中。また東ではサンレイク草木のリニューアルといった大きなものもあり、草木湖を使った取り組みも考えている。各3町の特色を考えながら、バランスよく進めていきたいと考えている。	笠懸、大間々、東それぞれの強みを生かした整備やまちづくりを進めて行きたいと考えている。
4	出生率の上昇には、子どもを望むのかどうかということや、2人以上産もうと思うかどうか、まずは生の声を聞き取り、現状の施策とのギャップを分析することが必要なのではないかと。また、テレワークや柔軟な働き方も含めて考えるとよいのでは。	2人以上産むには経済的な負担が大きいというような原因の把握や、子育ての環境整備に必要なことについて具体的な聞き取りをしている状況がある。これを子育てや教育環境の充実に反映できるよう進めていきたいというふうに考えている。 経済的な負担以外にも、晩婚化や社会的な構造的の部分といったものがある中において、何が足枷になってるのかを把握して事業を進めていきたいと考えている。	今年度から本格的な子育て施策がスタートしており、現在効果測定を行っている。 各施策の効果を見ながら今後の方向性を考えていきたい。
5	民間との協働ということで、子育てや出産のしやすさに産院や小児科の数ということも関わってくるかと思う。行政として病院などと関わりを持ち、増やすなど、市としてそのあたりの視点はあるのか。また、みどり市独自の奨学金制度を設けたりする予定はあるのか。	直接、民間の病院に働きかけることは難しいが、今後の取り組みに生かしていきたい。 奨学金については、来年度の事業検討中であり、示せるタイミングが来たらお伝えしたい。	奨学金制度については、今年度より貸与型奨学金について一定の条件を満たせば返還免除としたほか、意欲ある若者のための給付型奨学金制度も設立するなど、独自の奨学金制度の運用を開始した。
6	各自治体で子育て支援は盛んに行っているが、「少子化対策」をしているところは少ない。少子化の要因としては経済的負担や晩婚化などがあり、奨学金対策など、若者が将来に希望を持ち、結婚してもらおうという視点での取り組みも必要ではないか。	課題を細分化すると真の原因が見え、それが取り組みに繋がると思うので、今のご意見を参考にし、奨学金の制度も検討していきたいと思う。	みどり市独自の奨学金制度のほか、各こども施策が今年度からスタートした中で、今後どのような施策や事業が必要か、効果を見ながら精査していく。